

用地という仕事

地元の方々と機構をつなぐ架け橋に

水資源機構における「用地の仕事」は、ダムや水路等を新築・改築するために必要となる土地の取得やこれに伴う損失の補償を行うことです。

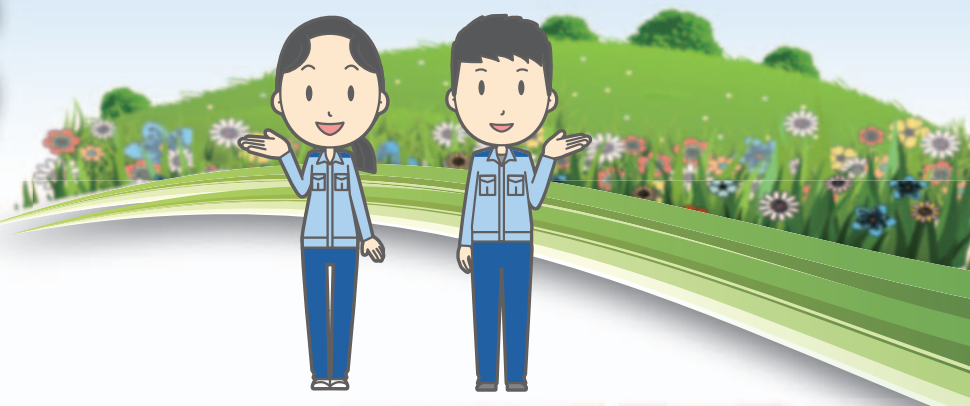
ダムや水路等を新築・改築するには、「用地」の取得が必要不可欠です。先祖伝来の土地や苦勞して手に入れた土地を譲っていただくことになるため、地元の方々の土地への思いを尊重しつつ事業に協力いただくことが大切になります。

そのためには、ダムや水路等の目的や計画を十分に説明し、この土地がどうして必要なのかを理解していただくとともに、信頼関係を築くことが必要です。

「用地の仕事」は、地元の方々と機構をつなぐ架け橋であり、とても大切な仕事です。



話術ではなく、相手に近づこうとする気持ちで補償説明



誠意を持って地元の方々へ事業説明



事業に必要な土地を測量・調査



測量・調査の結果をもとに補償金を算定



所有権移転等の登記手続きのため法務局へ

さて、下の写真は、何をしているところだと思いますか？



- 何か、目印になるようなもの、ないですか？
- たしか、このあたりだと、思うんだけどね…
- ここに、杭があるけど、ここですかね？

そうです、
土地の境界について
立会をしています。



「用地の仕事」は
大きく3つに分けられます。

測量
調査

説明
協議

契約
登記



用地の仕事



それでは、事業説明会を始めます。
～ある水路の改築事業では～



水資源機構
工事課長

水資源機構
用地課長

地元関係機関
職員

事業計画が具体化されると、地元の方々に集まっていただき、地元関係機関の立会のもと事業説明会を行います。この日は、用地課長のあいさつに続いて、工事課長が事業の目的、工事の内容、スケジュールなどについて説明し、次に、用地課長が、測量に伴う土地の立ち入りと境界確認の際の立会をお願いし、用地取得に伴う補償の考え方について説明しました。

事業説明会では、地元の方から様々な質問や要望が出されます。

- 土地の境界を確認するというけど、よくわからないよ…
- 近くに住む者だけど、工事期間中の振動や騒音は大丈夫なの？
- 子供の通学路になっているから、トラックの通行は通学時間帯を避けて欲しい！



石川 勇也

平成 27 年入社
房総導水路事業所
総務用地課

様々な知識が求められる仕事

工事に必要となる土地の取得や借地のため、現地の調査、土地の測量、補償額の算定、所有者の方との交渉など、幅広い業務があります。覚えることが多く、工事の内容を理解するため技術の職員に工法等を教えてもらったり、所有者を見つけるため戸籍等の調査をしたり、権利設定の登記手続きをしたりと、専門的な知識や技術を要求されることもあります。それだけに、実際の仕事を通じて知識や技術を身につけることができた実感できると、とてもやりがいや達成感を感じられます。



木戸 菜央子

平成 26 年入社
群馬用水管理所
事業班

たくさんの「人」と接する仕事

用地を取得するため、現場に足を運んで、現地を確認し、土地所有者をはじめとした関係者の方に説明することが主な仕事です。機構の仕事の中でも、特に「人」と関わることの多い職種だと思います。関係者の方は、世間話の好きな方や必要最小限の事務的な話しかしない方など十人十色。そのため説明の仕方も、その時、その人によって様々です。目指すところは常に同じですが、その過程に正解が無いところが興味深いです。経験がものを言う職種だな、と先輩職員の隣で日々感じています。

用地取得の流れ

1 測量・調査

ダムや水路の新築・改築に必要な土地の所有者に立会っていただき、土地の境界や事業に必要な土地の範囲を測量し、移転していただく物件(立木、工作物等)の調査をします。



4 契約

土地の所有者や権利者の方に了解をいただけたら、契約書に署名・押印をいただきます。



2 補償金の算定

譲っていただく土地や移転していただく物件等の補償金を算定します。



5 補償金の支払

土地の所有権移転登記が完了し、土地の引渡が完了した後、補償金をお支払いします。



3 補償の説明

土地の所有者や権利者の方に補償金の算定内容を説明し、協力をお願いします。



人と造る 人と繋がる